

令和2年度
事業報告書

自：令和2年4月 1日

至：令和3年3月 31日

社会福祉法人若狭町社会福祉協議会

法人運営事業

組織体制の強化

・ 理事会の開催

- | | | |
|--------|-------|--------------------------|
| 6月3日 | 第1号議案 | 障がい者相談支援センターわかさの廃止について |
| | 第2号議案 | 定款変更について |
| | 第3号議案 | 令和元年度事業報告および決算(監査報告)について |
| | 第4号議案 | 定時評議員会の招集について |
| | 第5号議案 | 評議員選任解任委員の選任について |
| | 第6号議案 | 評議員候補者の選定について |
| 9月9日 | 第1号議案 | 赤い羽根共同募金について |
| | 第2号議案 | 評議員候補者の選定について |
| 12月16日 | 第1号議案 | 上期中間監査報告と今後の事業運営について |
| | 第2号議案 | 令和2年度第1次補正予算(案)について |
| | 第3号議案 | 育児・介護休業及び短時間勤務規程の変更について |
| | 第4号議案 | 評議員会の招集について |
| 3月17日 | 第1号議案 | きらやま茶屋従たる事業所立ち上げ計画について |
| | 第2号議案 | 給与規程及び非正規職員就業規則の変更について |
| | 第3号議案 | 役員及び評議員選任細則の変更について |
| | 第4号議案 | 役員等の賠償責任保険への加入について |
| | 第5号議案 | 令和2年度第2次補正予算(案)について |
| | 第6号議案 | 令和3年度事業計画(案)並びに予算(案)について |
| | 第7号議案 | 苦情解決第三者委員の選任について |
| | 第8号議案 | 評議員会の招集について |

・ 評議員会の開催

- | | | |
|--------|-------|--------------------------|
| 6月18日 | 第1号議案 | 定款変更について |
| | 第2号議案 | 令和元年度事業報告および決算(監査報告)について |
| 12月24日 | 第1号議案 | 上期中間監査報告と今後の事業運営について |
| | 第2号議案 | 令和2年度第1次補正(案)について |
| 3月25日 | 第1号議案 | 令和2年度第2次補正予算(案)について |
| | 第2号議案 | 令和3年度事業計画(案)並びに予算(案)について |

- ・ 監事会の開催
 - 5月19日 令和元年度決算監査
 - 11月13日 令和2年度中間決算監査
- ・ 三役会の開催
 - 計12回開催し、決算の作成、理事会、評議員会の招集および議案の提出、人事に関することについて協議しました。
- ・ 所長会の開催
 - 計19回開催し、三役会、理事会、評議員会提出案件、事業所間および社協全体における課題と対策に関することについて協議しました。
- ・ 事業所会議（安全衛生委員会）の開催
 - 計12回開催し、事業所内における課題と対策に関することについて協議しました。
- ・ 福祉サービス苦情受付窓口の設置
 - 福祉サービス利用者からの苦情を受け付ける苦情受付窓口を設置しました。
 - また、苦情解決にあたり、中立・公正な立場から助言を行う第三者委員を設置しました。
 - 苦情受付件数 5件
 - 苦情受付後の対応状況 解決5件

人材確保

- ・ 新卒職員の定期採用のため、職員募集を行いました但採用には至っていません。
- ・ 安定的な労働力確保のための取り組みの一環として、外国人労働者の受入について検討しました。

安定した財源確保

- ・ 中長期的な施設の維持管理を目的とした設備等整備積立金および修繕積立金への積立を当初予算計上していましたが、令和2年度の経営状況を考慮し第2次補正予算において積立金の計上を見送りました。
- ・ 自主財源の活用方法の見直しについて、現在実施している事業の検証をおよび新規事業への取り組みについて検討しました。
- ・ 働き方改革関連法に対応した待遇格差改善の一環として、非正規職員への賞与を支給しました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症関連の補助金を活用し、感染拡大防止を目的とした設備整備や、職員へ対する慰労金を支給しました。
- ・ 社協会費、積立金実績（R3.3.31現在）

会費	一般会費	3,475 世帯加入	3,402,569 円
	特別会費	208 件加入	1,207,000 円

一般会費について、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、依頼時期を9月に変更しました。

積立金	福祉基金積立	11件	1,319,400円
	設備等整備積立	12件	970,400円
	修繕積立	2件	500,000円

地域福祉事業

< 小地域福祉活動推進事業 >

住民が主体となった福祉活動の支援

- ・ 各地域づくり協議会へ定期的に参加し、地域住民との意見交換や課題の解決にむけての情報提供を行いました。
- ・ 小地域福祉活動推進モデル集落を 9 集落指定しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小地域福祉活動連絡会の開催を中止しましたが、集落代表者と定期的に連絡をとり課題の共有や情報交換を行い、集落の将来を見据えこれからの福祉活動について検討する機会を作ることが出来ました。

- (1) みそみ地区 地域づくり協議会福祉部会 12 回
" 地域づくり協議会支え合い部会交流会 1 回
熊川地区 支え合い推進委員会 9 回
瓜生地区 支え合い推進委員会 5 回
鳥羽地区 支え合い連絡会全体会 1 回
- (2) 小地域福祉活動推進モデル集落の設置 (共同募金審査委員会にて決定)
平成 30 年度～令和 2 年度：気山区市、三生野区、下夕中区
令和元年度～令和 3 年度：気山区芋、無悪区、鳥浜区
令和 2 年度～令和 4 年度：下野木区、長江区、佐古・田名区

< 福祉委員活動推進事業 >

福祉委員が地域福祉活動において中核的な役割を担う人材となるための支援

- ・ 「コロナ禍における地域福祉活動」をテーマに福祉委員研修会を開催しました。
三方地域：11 月 11 日 (水) リブラ若狭 講堂
上中地域：11 月 25 日 (水) 歴史文化館 講堂
- ・ 福祉委員の手引きの内容見直しについて検討しました。
- ・ 福祉委員の役割を周知するため、社協だよりにて福祉委員の活動について掲載しました。

< ボランティアセンター運営事業 >

住民や企業に向けたボランティアセンターおよび災害ボランティアセンターの周知と PR

- ・ ボランティア出前講座について、車いす体験や高齢者疑似体験、手話体験、点字体験ではデイサービスの職員や外部講師に授業を依頼し、より専門的な内容を提供することができました。また、今年度より妊婦体験を実施するな

ど、授業内容の充実を図りました。体験を通じ、生徒たちは、自分に出来ることを考え、行動したいという考えを示せるようになりました。

- ・町内をはじめ県内のボランティア体験活動情報やボランティア活動推進イベント情報について SNS 等を活用し発信しました。
- ・全国的な災害ボランティア情報や災害ボランティアセンターの設置状況について SNS 等を活用し発信しました。

(1) ボランティアセンター運営委員会

9月4日 運営委員 6名参加

- ・ボランティア月間(9月)の啓発活動について

1月28日 運営委員 7名参加

- ・令和2年度事業報告について
- ・子どもを中心に取り組む福祉教育推進事業について

(2) ボランティア登録、更新、斡旋業務の充実

個人ボランティア登録者数 63名

ボランティア団体登録数 3団体

ボランティア活動保険加入者数 932名

(3) 福祉教育の推進

ボランティア出前講座の開催

9月30日	講義(福祉について)	瓜生小学校
10月15日	講義(障がいについて)、アイマスク体験	瓜生小学校
11月4日	点字体験	瓜生小学校
11月9日	妊婦体験	瓜生小学校
11月16日	講義、アイマスク体験	鳥羽小学校
11月18日	車いす体験、高齢者疑似体験	瓜生小学校
11月19日	高齢者疑似体験	鳥羽小学校
11月26日	手話体験	瓜生小学校
11月27日	車いす体験	鳥羽小学校
12月9日	車いすバスケットボール、フライングディスク	鳥羽小学校
12月11日	点字体験	鳥羽小学校
12月18日	手話体験	鳥羽小学校
1月22日	車いすバスケットボール、フライングディスク	瓜生小学校

(4) 家屋補修支援事業

三方地域 8月23日 希望者 3件 実施 3件 ボランティア 6名

上中地域 12月6日 希望者 20件 実施 18件 ボランティア 19名

(5) ボランティア活動への支援

図書館ボランティア『虹の会』 おげんきですか発行支援 5回

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、6月発行は中止。

(6) ボランティア月間の啓発

各学校、公民館、サポーター企業へボランティア月間のチラシやポスターの掲示等に協力頂き啓発を行いました。

(7) サポーター企業について

サポーター企業の地域貢献活動取材し、社協だよりにて広報しました。

(8) 地域で支える送迎サービス

利用登録者 95 名 貸出件数 218 件 利用延人数 1036 名

みそみ買物メイトは5月に町内で新型コロナウイルス感染者が出た際、活動を一時中断しました。

(9) 若狭町災害ボランティアセンター連絡会

第1回災害ボランティアセンター連絡会協議会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

11月14日 災害時における社協相互支援実施訓練 1名参加

・新型コロナウイルス感染症の予防対策に配慮した運営実践訓練

12月2日 第1回連絡会協議会 15名参加

・令和元年度災害ボランティアセンター連絡会運営事業報告

・令和2年度災害ボランティアセンター連絡会活動予定について

12月24日 新型コロナウイルス禍における県外ボランティア受入方針について(オンライン会議)1名参加

・福井県災害ボランティアセンター連絡会より、災害時に備え県外からのボランティア受入れに関する基準等の説明会

12月25日 令和2年度 第6回市町災害時対応力強化研修会(web会議) 1名参加

・要配慮者・避難行動要支援者に関する座学

1月22日 第2回連絡会協議会 16名参加

・令和2年度災害ボランティアセンター連絡会運営事業報告

・令和3年度若狭町災害ボランティアセンター連絡会活動予定【案】

・新型コロナ禍における災害ボランティア県外受入方針について

2月13日 災害ボランティア研修(嶺南ブロック) 1名参加

・第1部 7月豪雨災害におけるボランティア活動

・第2部 感染禍における災害ボランティア運営について

<送迎支援サービス事業>

住民のニーズを踏まえた支え合える体制づくりの推進

・三宅地区でボランティアによる送迎団体の立ち上げに向けての検討を行っており、課題解決を含めて活動できるように情報提供しました。

(1) 外出支援サービス事業(上中地域 129 名、三方地域 79 名)

(2) 個人用福祉車両貸出し事業(16件)

(単位：延利用者数)

(上半期)	年間目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
外出支援	280	24	20	27	28	20	21	140
		19	16	24	21	9	10	99
個人用貸出	33	0	1	1	0	0	0	2
		2	0	3	1	0	0	6

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
外出支援	26	24	24	23	19	20	136	276
	11	13	22	21	18	24	109	208
個人用貸出	1	5	3	1	1	5	16	18
	1	2	2	1	2	2	10	16

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< 福祉総合相談事業 >

各種相談事業の周知と様々な相談へ対応

- ・ 心配ごと相談員の資質向上のために連絡会を開催しました。

(1) 心配ごと相談

毎月第2火曜日 10回開催 相談件数 4件(上中地域3件、三方地域1件)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4・5月は中止。

6・8月は三十三公民館で開催。

(2) 無料法律相談

毎月第2火曜日 10回開催 相談件数 43件(上中地域22件、三方地域21件)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4・5月は中止。

6・8月は三十三公民館で開催。

< 生活困難者支援事業 >

サービス利用者に合わせた適切な支援

- ・ 地域住民や民生児童委員、関係機関と密に連携を取りながら、利用者の自立に向けて適切なサービス提供を行いました。
- ・ 居宅介護支援事業所や相談支援センターと気がかりな方の情報交換や相談を行いました。

(1) 日常生活自立支援事業

(新規契約1件、契約終了1件、現在利用中17件)

(2) 金銭等管理事業

(新規契約2件、契約終了0件、現在利用中7件)

(3) ふくしの資金貸付事業

生活福祉資金貸付

(新規契約 33 件、契約終了 2 件、現在利用中 43 件)

新規契約 33 件のうち、32 件が新型コロナウイルス特例貸付。

たすけあい金庫貸付 2 件

緊急食糧支援事業 5 件

< 広報活動 >

住民に分かりやすい広報活動

- ・各地区、各集落の福祉活動取材し社協だよりで紹介しました。
- ・社協だよりに関心を持ってもらえるように町内の「外国人労働者」「若者」「福祉人」の紹介をしました。
- ・ホームページや SNS を使い、町内の情報をはじめ県内のボランティア情報や福井県共同募金会の情報を発信しました。

(1) 社協だよりの発行 4、6、8、10、12、2 月発行

< 介護予防・生活支援 >

福祉用具が必要な方への貸出し

- ・今年度から五湖の郷事業所を含む 3 か所の事業所で介護用品の貸出しが出来るように整備し社協だよりで周知しました。

(1) 介護用品無料貸出事業

ベッド	貸出し中	8 台	(残 6 台)
車いす	貸出し中	11 台	(残 17 台)
スロープ	貸出し中	0 台	(残 5 台)
サイドテーブル	貸出し中	0 台	(残 4 台)

< 地域サロン支援事業 >

閉じこもりがちな方の孤立防止と介護予防の支援

- ・2 集落のサロンを対象として支援を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から活動を一時休止するサロンが多く、直接的な支援を行うことができませんでした。
- ・みそみ地域づくり協議会支え合い部会交流会へ参加し、サロン世話役と情報交換を行いました。
- ・熊川支え合い推進委員会へ参加し、熊川地区サロンの立ち上げについて支援しました。

< 共同募金助成金事業 >

集落での活動、障がい者や生活困難者への支援などさまざまな地域福祉事業への共同募金助成金の活用

【一般募金助成金事業】

- ・小地域福祉活動推進モデル集落(9 集落)への助成

- ・きらりアート展の開催
10月15日(木)～10月26日(月) 応募数134点
- ・要援護者支援調査
若狭町内の要援護者についての調査を行う費用として活用しました。

【歳末たすけあい募金助成金事業】

- ・広報啓発活動事業
社協だより発行にかかる費用に活用しました。
- ・障がい児クリスマス会
障がいを持った子ども達とその家族を対象に実施しました。
開催日：12月13日(日) 参加者：25名
- ・歳末たすけあいひとり暮らし高齢者激励事業
町内在住で75歳以上、町内に実子がないひとり暮らしの方を対象に「そば・豆」「花・お茶」「日用品」から希望の品を福祉委員に届け、福祉委員に安否確認・孤独感の緩和を兼ねて訪問・お届けしていただきました。
配布日：12月16日 対象：61集落 210名
- ・歳末たすけあい福来たる事業
生活保護受給者へお米と日用品を社協職員がお届けしました。
実施日：12月25日(金) 対象者：19名
- ・障がい者ニコニコスマイル訪問事業
身体障害者手帳1.2級を所持しているひとり暮らしの方6名と、18歳未満の身体障害者手帳をお持ちの方に社協職員がタオルセットをお届けしました。
実施日：12月4日(金) 対象者：7名

通所介護事業

安心した在宅生活を支援するために多様なニーズを受け入れる体制作り

- ・利用者を中心としてチームケアを確立させ、認知症の方や重度の方の受け入れを積極的に行いました。
- ・コロナ禍になり地域の方々との関りが希薄になりましたが、地域の情報を伝えることで関心を持って頂くことが出来ました。
- ・安心して在宅生活が送れるよう、新型コロナウイルス感染症対策をとり生活様式の変化に対応できる支援をしました。
- ・送迎時間や受け入れ時間帯を柔軟に対応して、個々の家族の生活スタイルに合わせ安定した在宅生活の支援が出来ました。

< デイサービスセンターパレア若狭 >

認知症個別ケアのサービス提供

- ・一人ひとりの認知症状に応じたケアをすることで利用者が安心して過ごしていただける環境づくりが出来ました。
- ・家族や関係機関と連携を取り情報共有をしていくことで、認知症が進行しても在宅生活を継続するための支援が出来ました。
- ・他職種と連携を取り、ケア会議などに積極的に参加していくことで統一したケアの提供が出来ました。

地域資源を取り入れた交流

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止として、ボランティアや地域の方々の面会を制限したため、地域との交流の機会を設けることが出来ませんでした。
- ・ボランティアから訪問が出来ない代わりに励ましの電話や心温まる手紙をいただき利用者との繋がりが持てました。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止として外部との交流は制限している中で、近隣小学校から頂いたお米の寄付に対して、利用者からはお礼の手紙や作品を渡し、交流を図りました。
- ・福祉学習や地域との交流、面会の機会はオンラインで実施できるよう準備を行いました。

利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
通所介護	3,630	298	308	256	313	339	311	1,825
		292	299	325	332	319	337	1,904

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
通所介護	311	302	306	321	320	358	1,918	3,743
	334	312	309	272	250	295	1,772	3,676

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

利用実績（定員：7名、営業日：月曜日～金曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
緩和型A型	1,300	120	120	110	120	106	109	685
		70	97	107	110	110	117	611

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
緩和型A型	106	109	109	113	108	104	649	1,334
	133	126	145	129	125	135	793	1,404

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< デイサービスセンターいずみ >

機能訓練の充実

- ・ 午前中と午後の1日2回音楽に合わせて体を動かす体操の定着を図り、ほぼ全員の利用者が参加することで、身体の機能維持に繋がる活動が出来ました。また認知機能においても、能力トレーニングに適したプリント類に挑戦することやデイサービスの利用を通して職員や他の利用者とのコミュニケーションを取り合うことで、充実した時間を過ごしていただくことが出来ました。
- ・ タオルや砂袋、ゴムチューブなど身近な物を使って負荷を掛けた体操に取り組む事が出来ました。能力トレーニングでは個々に応じた内容を提案し、個別の対応することが出来ました。

地域交流の充実

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、外部との交流の機会を設けることが出来ず、十分な地域交流が図れませんでした。
- ・ コロナ禍で制限のある為十分な地域交流が図れませんでした。が、地元の小学生から手紙と作品をもらい、お返しに手紙や塗り絵の交換で交流する事が出来ました。

認知症の理解を深めた柔軟な対応の提供

- ・ 認知症の症状を理解し、個々に応じた柔軟な対応を心掛け、各関係機関と連携を図ることで、認知症になっても安心してサービスを受けながら住み慣れた自宅での生活を維持していけるよう援助することが出来ました。
- ・ 各家庭とデイサービスでの状態の変化を見聞し、関係する他のサービスと連携しながら包括的に関わることが出来ました。

利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
通所介護	3,838	284	300	360	382	377	351	2,054
		295	306	314	325	277	271	1,788

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
通所介護	356	353	342	351	335	342	2,079	4,133
	283	262	277	232	246	270	1,570	3,358

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

利用実績（定員：10名、営業日：月曜日～金曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
緩和型A型	490	26	27	21	27	33	33	167
		29	37	59	56	46	52	279

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
緩和型A型	39	44	34	36	42	43	238	405
	49	54	40	39	48	55	285	564

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< デイサービスセンター五湖の郷 >

地域に根差した運営の強化

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響でボランティアの受入れ、地域との交流の機会はほとんど設けることが出来ませんでした。感染症対策をとった上で利用者の親戚や知人との交流の場として施設の一角を提供する事は出来ました。

- ・ コロナ過でも安全な方法を検討し、梅の里保育園との交流を実施しました。利用者から園児へ卒園記念品の贈呈、園児から利用者へ手作りのお礼や踊りの発表など、楽しい一時を過ごすことが出来ました。

認知症の専門的知識を生かした質の高いサービスの提供

- ・ 個人個人の症状に合わせた利用をして頂けるよう、個別の対応や柔軟なサービスを提供することで、他事業所で継続利用が出来なかった方でも安心してご利用頂ける環境を提供することが出来ました。
- ・ 利用者の状態に合わせて、出来る限り個別の対応が出来るように業務体制の見直しを実施しました。

重度利用者の受け入れ態勢の強化

- ・ 家族や各関係機関と連携を密にとることで情報共有をし、日々状態が変化する重度の利用者の受入れを継続し、在宅生活の継続支援が出来ました。
- ・ 利用者や介助員の負担軽減を目的とした福祉機器の導入を検討し、試乗機での運用試験を実施しました。

利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

(単位：延利用者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
通所介護	3,768	351	358	302	305	291	295	1,902
		237	244	284	316	283	302	1,666

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
通所介護	308	302	289	254	229	247	1,629	3,531
	335	293	316	270	263	287	1,764	3,430

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

利用実績（定員：5名、営業日：月曜日～金曜日 ただし年末年始は除く）

(単位：延利用者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
緩和型 A 型	48	4	4	4	4	3	4	23
		8	10	18	16	12	17	81

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
緩和型 A 型	5	8	7	7	8	9	44	67
	17	16	15	16	17	27	108	189

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

居宅介護支援事業所パレア若狭

主任ケアマネジャーの配置

- ・主任ケアマネジャーの更新研修を修了しました。今年度のケアマネジャー法定研修は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりファシリテーター依頼はありませんでした。
- ・1月～2月にかけての3日間に介護支援専門員実務研修の受け入れを1名行いました。
- ・各ケアマネジャーの事例相談や支援は、適宜行うことが出来ました。

ケアマネジャーの資質向上

- ・若狭町地域ケア会議への事例提出をはじめ認知症研修や口腔ケア研修に参加し、専門的な資質向上に努めました。
- ・定期会議を毎週1回開催し、ケアマネジャー全員で事例検討や報告、困難事例等について協議し、ケアプラン作成や対応の相談を行いました。
- ・ケアマネ連絡会主催の生活保護制度・障がいサービスの研修、高齢者の権利擁護（成年後見制度等）に関する制度の研修会、自立支援プラン作成を目指す研修会等に参加しました。

地域福祉事業、小規模多機能ホーム、障がい者相談支援センターと連携強化

- ・地域福祉事業の金銭等管理事業利用者や障がい福祉サービスの利用者について、生活に必要な支援ができるように相談を行いました。
- ・利用者の状況に合わせて外出支援サービス、金銭管理事業等の利用についての紹介や相談を行いました。小規模多機能ホームとの連携も図り、必要時の利用者受け入れ、相談等を行いました。

利用実績

(単位：延利用者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
居宅介護支援	1,356	149	145	148	150	147	148	887
		99	97	103	105	102	100	606

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
居宅介護支援	139	119	114	108	107	102	689	1,576
	104	111	115	113	108	118	669	1,275

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

相談支援センターわかさ

福祉、医療、行政等関係機関との連携強化

- ・ 障害福祉サービス事業所と連絡を密にとりながら、医療機関や居宅介護支援事業所と積極的に連携を図り必要な情報を交換しました。
- ・ 8月31日付けの事業廃止に伴い、引継ぎ先となる各相談支援事業所へ情報提供を行いました。

総合相談窓口としての機能充実

- ・ 必要時は居宅介護支援事業、地域福祉事業等と情報共有や相談をすることで総合相談窓口としての機能充実に努めました。

利用実績

< 特定相談支援事業 > 計画 21 件、モニタリング 97 件 (単位：延利用者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
特定相談支援	97	22	8	13	10	11	16	80
		16	7	15	2	0		40

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
特定相談支援	14	8	11	11	11	19	74	154
								40

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< 障害児相談支援事業 > 計画 8 件、モニタリング 14 件 (単位：延利用者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
障害児相談支援	14	14	3	3	6	5	5	36
		4	2	0	1	0		7

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
障害児相談支援	1	1	10	2	3	2	19	55
								7

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

生活支援ハウス

高齢者が安心して健康で明るい生活を送るための活動支援

- ・ 入居者や家族の多様なニーズに対して短期入所で柔軟に対応しました。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外部への行事参加や外出等は出来ませんでした。また面会を一部制限しました。
- ・ 介護支援機能の充実として一人一人の利用者に対し、必要な支援を行いました。
- ・ 対面の面会制限をするなか、タブレットを活用しオンラインで家族との面会を実施しました。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、2人共有部屋を1人部屋として利用しました。

各関係機関との連携強化による適切な運営

- ・ 近隣市町の居宅介護支援事業所をはじめ病院などの各関係機関に、入居者募集のチラシを配布し利用促進に努めました。
- ・ 各関係機関に空室状況等の情報提供を行うことで利用促進に努めました。
- ・ 居宅介護支援事業所パレア若狭と生活支援ハウスの連携を強化し、利用者の獲得に努めました。
- ・ 社協だよりに生活支援ハウスの案内を掲載し、町民への周知をして利用促進に努めました。
- ・ デイサービスパレアと連携を取り、双方の実績向上に努めました。

今後の運営体制について検討

- ・ 健全な経営を行うために経営改善計画を策定し管理体制を見直しました。
- ・ デイサービスが生活支援ハウスを一体管理し、デイサービス職員全員が生活支援ハウスを兼務することで効率がよい勤務体制が可能となりました。
- ・ 2回目以降（リピーター）の利用者については申請書を簡素化し、家族等の負担軽減に努めました。
- ・ 毎月、短期利用される入居者が定着し安定した運営ができるようになりました。

利用実績（居室利用定員：12名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
生活支援ハウス	2,014	126	103	92	154	167	158	800
		146	155	120	123	192	224	960

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
生活支援ハウス	119	125	288	335	320	260	1,447	2,247
	215	183	274	307	280	270	1,529	2,489

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

ホームヘルプサービスいずみ

訪問介護に求められるニーズに寄り添ったサービスの提供

- ・ 安心、安全にケアが提供出来るよう訪問看護のリハビリに同行し普段の動作を確認することで、利用者の残存機能を活かしたケアに繋がりました。
- ・ 常に利用者の要望、変化、注意事項等を共有し、機能維持を心掛けながらサービスの統一に努めました。
- ・ 部署内でのケース検討会を定期的に行い、計画や目標の見直しを行ないました。

人材育成とスキルアップ

- ・ 動画を用いながらマンネリ化を防ぎ、分かりやすい研修の取り組みを行いました。

利用実績 (営業日：月曜日～日曜日 ただし、1月1日～3日までは除く)

(単位：延利用者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
訪問介護(介護)	8,551	625	664	701	834	732	804	4,360
		657	698	748	719	640	709	4,171
緩和型 A 型	651	47	49	46	44	47	39	272
		29	26	35	47	47	64	248
訪問介護 (障がい)	676	55	61	45	64	80	67	372
		40	32	46	54	43	27	242

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
訪問介護(介護)	781	652	650	592	650	682	4,007	8,367
	701	687	684	620	666	671	4,029	8,200
緩和型 A 型	46	42	44	41	38	40	251	523
	58	52	39	35	39	44	267	515
訪問介護 (障がい)	64	63	58	41	44	44	314	686
	16	15	9	24	21	43	128	370

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

訪問看護ステーションわかさ

各関係機関、他の事業所との連携強化

- ・ 日々の訪問の中で小さな変化を見逃さず、課題が発生した時には関係機関と連携し病状の悪化予防に努めました。また他サービスを含む関係機関と頻回にケース検討を行い、より良いサービスを行うことでQOLの改善に働きかけることが出来ました。
- ・ 入退院時の受け入れや状態の不安定な時期への関わりを手厚くし、緊急な訪問要請への迅速な対応や必要なサービス導入への働きかけを行い、在宅で安心・安楽に過ごせるよう支援しました。
- ・ 介護技術の指導や実践を家族と共に行いながら、家族の介護力の向上及び緊急時の対応の強化を図りました。
- ・ 地域のサロンへ参加し健康維持に必要な助言や指導を行い、住民の身体機能維持及び向上に努めました。

スタッフの質の向上

- ・ 訪問時に感じた不安点や疑問点等の解決を目指した内部研修を企画し、質の向上を図りました。また、OJTでの評価制度を導入し、各スタッフごとに課題の抽出を行うことで、次年度の研修計画に繋げました。
- ・ 看護学生の実習指導により、訪問看護の推進やスタッフの資質向上が図れました。

24時間対応の継続

- ・ 状態の変化から起こりうる急変を予測し、情報の共有や緊急対応の検討を行いました。
- ・ 在宅での看取りの支援や医療と介護の連携を深め、利用者及びその家族が安心して在宅生活が継続出来るよう支援しました。

健全経営を目的とした経営改善計画の実施

- ・ 居宅介護支援事業所や地域連携室等との連携や働きかけを積極的に行い、新規依頼数増加に繋がるよう行動しました。
- ・ 異常の早期発見と対応に努め、入院期間の短縮や悪化の予防を図り実績の確保に努めました。
- ・ 精神科訪問看護への参入を図るため研修を受講し、受け入れ体制を整えました。
- ・ スタッフの体調不良等による欠勤の際にも看護職、リハ職が連携し利用者への対応を行うことで、継続してサービス提供を行えました。

- ・電子カルテの導入により事務時間が短縮でき、これにより訪問可能枠の拡大が行えました。

利用実績（営業日：月曜日～金曜日 ただし祝日、年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
訪問看護(予防)	836	44	54	55	65	63	55	336
		73	62	68	76	73	86	438
訪問看護(介護)	4,358	354	327	335	377	366	361	2,120
		318	254	362	350	332	363	1,979
訪問看護(医療)	1,442	119	126	126	132	136	109	748
		90	84	116	103	76	80	549

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
訪問看護(予防)	60	56	53	64	63	70	366	702
	88	88	76	49	64	62	427	865
訪問看護(介護)	397	328	295	259	277	318	1,874	3,994
	369	299	292	307	259	319	1,845	3,824
訪問看護(医療)	128	104	116	74	68	81	571	1,319
	69	76	104	106	149	179	683	1,232

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

生きいきふれあい館

介護予防および地域交流、世代間交流の場等全世代の公共施設としての利用促進

- ・新型コロナウイルス感染予防のため、2月28日午後より5月31日まで利用休止の対応をとりました。
- ・地域交流・世代間交流のイベントを検討していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できませんでした。各集落サロンでの交流の方法のひとつとしてゲートボール用品やグランドゴルフ用品を貸出しました。

利用実績

(単位：延利用団体数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
生きいき	820	60	59	61	66	50	58	354
ふれあい館		0	0	55	69	52	67	243

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
生きいき	76	60	79	83	90	0	388	742
ふれあい館	70	66	72	35	77	66	386	629

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

葬祭事業

サービスの向上

- ・ ご遺族の方に穏やかな追想のときを過ごしていただけるよう、心をこめて業務にあたっています。
- ・ 地域に根ざした施設運営として北前川老人会による施設周辺清掃（1月、2月を除く毎月第3日曜日）を受入れています。

4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、8月16日、9月20日、
10月18日、11月15日、3月21日

利用実績

(単位：件数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
葬祭事業		22	15	15	19	11	18	100
		17	19	10	14	17	14	91

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
葬祭事業	15	17	16	20	17	26	111	211
	12	27	25	27	16	14	121	212

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

コミュニティカフェきらやま茶屋（障害者就労継続支援B型）

企業から信頼される就労支援事業所づくり

- ・ 内職の完成度が高く評価されたことで大口の内職が入りました。また利用者が外で働く姿や、草取り等の仕上がりを見て個人からの清掃作業もいただくことができました。
- ・ 11月にバイヤーを招致する県の展示会へ参加し、県内の卸業者や町内の業者とつながることができました。

三方駅周辺施設や若狭町の情報発信場所としての利用促進

- ・ 町内施設の情報を把握し観光客へ提供することができました。

就労支援事業所として健全な経営を行うための経営改善

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月よりカフェの営業を中止しお弁当販売を行いました。また感染拡大防止策を取り11月よりカフェを再開しましたが、バイキング等のイベントは中止としました。
- ・ 地域福祉センター泉の「従たる事業所」開所に向け、毎月1回の会議を行い、販売商品と工場の名称を決定することができました。
- ・ 利用者の確保に努め年間で7名の新規利用者登録があり1日平均利用者数も2.5人増えました。

利用実績（定員：20名 営業日：月曜日～金曜日、ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
就労継続支援	2,849	234	245	231	227	193	194	1,324
		184	235	279	279	251	276	1,504
カフェ	4,748	400	420	353	471	441	370	2,455
		112	12	18	61	179	114	496
売店	2,374	203	359	209	231	228	195	1,425
		60	79	91	84	110	94	518

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
就労継続支援	216	212	214	193	186	211	1,232	2,556
	279	277	292	277	268	314	1,707	3,211
カフェ	479	428	389	401	376	241	2,314	4,769
	202	154	238	212	197	304	1,307	1,803
売店	168	190	181	160	180	186	1,065	2,490
	67	108	32	15	51	62	335	853

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

小規模多機能ホーム

地域福祉の拠点として、社会資源を十分に活かした体制づくり

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため合同研修は行わず、個々の事業所で研修会を行い介護技術向上に努めました。
- ・利用者の生活状況を十分に把握し、通いの回数の適正化を図りました。
- ・運営推進会議を通じ、地域の中で利用者様の今の暮らしを一緒に支え合える仕組みづくりの構築に努めました。

<小規模多機能型居宅介護ほたる熊川宿>

利用者と地域との繋がりが途切れない支援

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため年間通して、地域行事が中止や延期となり参加出来ませんでした。
- ・地域の方々の事業所への来館は制限をさせて頂き、交流の機会は持つことができませんでした。少しでも関わりが持てるように広報誌の発行を年3回行いました。
- ・地区サロンについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年度は中止となりました。少しでも関わりが持てるように利用者がマスクを手作りし、熊川地区公民館に寄付することで地域との繋がりを持つことが出来ました。

利用される方を主体とし、その人らしい生活を支援

- ・今必要としているニーズや急な訪問等に対応できるようにミーティング等で職員間の情報共有を図り、質の高いサービス提供に努めました。
- ・研修会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため参加は出来ませんでした。利用者や家族と連携を取りながら、必要とされるサービスや状況にあった対応を実施することでケアの向上に努めました。

利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：登録者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
小規模多機能型	166	12	13	13	14	13	13	78
居宅介護		14	14	14	14	14	14	84

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
小規模多機能型	13	12	14	13	15	14	81	159
居宅介護	14	13	13	14	14	14	82	166

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< 小規模多機能型居宅介護みさき >

地域の方に頼られる、福祉相談窓口の活性化

- ・ 干物作り、お茶会、町内外の外出行事に地域住民の方々を招くことは、新型コロナウイルス感染拡大防止のために出来ませんでした。送迎時や訪問時の声かけ、介護相談等を通じて、地域住民の方々と交流し連携を深めました。
- ・ 地域の福祉相談窓口として、みさき通信を年間3回全戸配布し情報提供しました。

僻地診療、往診医との連携の強化

- ・ 住み慣れた地域で健康に生活して頂くため、身体面や精神面の細かな変化や状態を、医療機関と密に情報交換し連携を図りました。

利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～日曜日）

(単位：登録者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
小規模多機能型	144	13	13	12	11	14	13	76
居宅介護		13	12	11	13	11	14	74

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
小規模多機能型	14	12	12	12	11	12	73	149
居宅介護	14	12	11	13	13	10	73	147

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< 小規模多機能型居宅介護きやま虹の家 >

地域の福祉拠点として人と人との繋がりがづくり

- ・ 新型コロナウイルス感染症予防対策のため虹の家への来訪制限があったため、地域の方へ手作りマスク等の訪問配布や小学校とのリモート交流を通じて繋がりをもちました。
- ・ サロン等へ訪問し、地域の人と利用者の方が交流する機会を設けました。

楽しみのある暮らしの支援

- ・ 畑作り、調理活動やドライブ等、個々の続けていきたいことや、やってみたいことを目標として上げ、感染予防を徹底しながら生きがい作りを行いました。
- ・ 訪問を強化し、自宅での暮らしの把握に努めました。

- ・レクリエーションや、看護師による個別でのリハビリを行い機能訓練を行い身体の機能維持を図りました。
- ・年間を通じて内部研修計画を立て実施し、オンラインでの外部研修にも参加し職員の資質向上に努めました。

利用実績（定員：18名 営業日：月曜日～日曜日）

(単位：登録者数)

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
小規模多機能型	180	15	16	16	16	17	17	97
居宅介護		13	14	14	15	15	17	88

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
小規模多機能型	16	16	15	16	16	14	93	190
居宅介護	17	17	17	17	17	17	102	190

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

介護予防拠点施設五湖の郷

地域交流の場としての機能を強化

- ・ 五湖カフェについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止中です。収束の見通しが立たず、更に、飲食を伴う感染リスクを考慮すると再開の目途は立っていません。
また、毎年夏に開催していた「梅の里夏まつり」についても、地域づくり協議会での協議の結果、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

ボランティア活動の推進

- ・ 定期的に活動いただいている運転ボランティア、カフェ運営ボランティア、レクリエーションボランティアについても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動を休止していますが、7月と9月に五湖の郷敷地内の草刈りや剪定等の清掃ボランティアについては、感染予防を行い66名の方に活動いただきました。

福祉学習の推進

- ・ 上半期は恒例の梅の里保育園との交流、施設内で利用者と直接関わる事を目的とする学習についても、新型コロナウイルス感染拡大防止のため受入れを行うことが出来ませんでした。下半期は感染対策を徹底した上で梅の里保育園と交流が出来ました。

特別養護老人ホーム五湖の郷

< 特養事業 >

終の棲家として安心して生活できる環境の充実

- ・ 担当者会議やユニット会議にて 24 時間シートを活用し、入居者一人ひとりの個性や生活リズムを大切にした暮らしの情報を把握・共有し、その見直しを行いながら、必要なケアの統一に取り組みました。終の棲家として 11 人の内、8 人の入居者が施設で最期を迎える事が出来ました。

利用実績（定員：29 名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
特別養護	10,375	829	809	846	841	852	847	5,024
老人ホーム		870	868	828	877	860	840	5,143

（下半期）	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	合計
特別養護	853	861	856	884	841	888	5,183	10,207
老人ホーム	876	835	832	868	794	884	5,089	10,232

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< 高齢ショート事業 >

在宅サービスとして生活習慣や意向を元に在宅生活の延長を目指した取組み

- ・ 今までの暮らしのこだわりや生活習慣について、アセスメントや 24 時間ショートの利用等で把握し、在宅での生活リズムを大切にしながら暮らしの延長として過ごしていただけるよう努めました。
- ・ 安心して家族を預けられる場所とっていただけるよう、細かな利用状況の報告や送迎時・面会時に家族とのコミュニケーションをしっかりと取り、相談しやすい関係作りに努めたことで、安心して預けられる場所としてリピーター増に繋がりました。その結果、毎月平均 4 日の利用増加となりました。

利用実績（定員：10 名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
高齢者ショート ステイ(予防)	10	0	0	4	0	0	0	4
高齢者ショート ステイ(介護)	3,093	218	227	227	248	248	243	1,411
		250	263	260	269	245	265	1,552

（下半期）	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計	合計
高齢者ショート ステイ(予防)	0	0	0	0	0	0	0	4
高齢者ショート ステイ(介護)	251	231	266	242	236	266	1,492	2,903
	246	173	228	270	239	238	1,394	2,946

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

認知症対応型グループホーム五湖の郷

地域住民とともに行う施設活動の実施

- ・ 定期開催をしているグループホーム運営推進会議で、近隣サロンとのつながりを持っています。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、第1回運営推進会議の開催は中止しました。第2回より通常開催をし、活動等だけでなく、対応困難な認知症の状態等も報告し、グループホームの現状を知ってもらう場にもなるように努めました。
- ・ 家族や地域の方との交流活動はしばらく見送りましたが、施設敷地内での散歩やレクリエーションを充実させ身体機能が低下しないよう努めました。

地域のニーズに対応出来る職員の専門性の強化

- ・ 外部研修への参加ができず、事業所内で感染予防について学び対応策を検討しました。状況に合わせZoomを活用しオンライン研修に参加しました。
- ・ 毎月実施しているケース会議の中で、情報と目的の共有をしました。入居者の状態の変化に対応していくことで認知症への理解を深めることに努めました。また、専門職（医療、リハビリ、各業者等）と連携を取るために、状況に合わせて文書や電話等での情報提供を行いました。必要に応じて、受診時に同行することで、家族との関係も築けました。
- ・ 運営推進会議で新型コロナウイルスに対する感染予防等の情報共有を行いました。またコロナ禍での施設内の取り組みに対する意見交換を行いました。

利用実績（定員：9名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
グループホーム	3251	270	278	258	273	275	268	1,622
		270	279	270	266	260	233	1,578

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
グループホーム	279	270	278	272	261	261	1,612	3,243
	218	210	239	261	252	279	1,459	3,037

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

障がい者日中活動支援施設

障がいの程度やニーズに応じた支援の強化

- ・ 利用者のニーズに沿ったレクリエーション活動を毎日複数用意し、また希望に応じて、リハビリ要素を組み込んだ機能訓練や生産活動を行いました。そのため、その日の体調に応じて、一人ひとりが無理なく共同生活をする事ができました。

地域住民に対する障がい者理解の促進

- ・ 利用者自身が地域に出でいき、地域の方と関われる機会がもてるよう野外活動を年間 22 回実施しました。新型コロナウイルス感染の影響を受け、野外活動の大半は自粛となり、またレクリエーション活動に来ていただいている地域ボランティアの受け入れは一年間中止しました。

< 障がい者デイサービス事業（生活介護） >

個々のニーズに応じたサービスの提供と支援の強化

- ・ 利用者の能力を維持・向上するために、短期目標・長期目標を決めて支援に取り組みました。
- ・ 生産活動をやりがいに感じている利用者に対して、年間 1,329 回の作業ができました。

利用実績（定員 20 名、営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

(上半期)	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
生活介護	3,195	269	284	276	280	259	264	1,632
		252	240	275	281	284	282	1,614

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
生活介護	274	261	275	245	246	271	1,572	3,204
	291	276	282	255	233	273	1,610	3,224

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< 日中一時支援事業 >

十分な職員体制を整え希望通りに利用できる事業運営

- ・ 新型コロナウイルス感染の影響で、放課後デイサービスや長期休暇スクールの開設目途が立てにくい状況にありましたが、できる限り利用者や家族の利用希望日ならびに要望に沿ったサービスを提供しました。

利用実績（定員 1～4名、営業日：月曜日～土曜日 ただし年末年始は除く）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
日中一時支援	773	56	46	49	55	48	44	298
		34	32	51	52	67	59	295

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
日中一時支援	41	39	53	47	44	56	280	578
	66	53	49	58	53	70	349	644

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

障がい者ケアホーム五湖の郷

それぞれの職員が利用者の生活全般を一体的に考える事ができるチーム作り

- ・ 日々の支援の中でなるべく職員同士が話せる時間を意識的に作り、その際に出た課題を毎月実施している会議で全体化する流れを作りました。各職員が自部署のみでなく、他の部署や関係機関との連携を見据えた上で支援ができるように意識付けが出来ました。
- ・ 県の研修や自立支援協議会等の会議で得た知識や情報を毎月実施している内部研修で各職員に伝えることが出来ました。内部研修で出た案を協議会で伝える等の相互的な作用も見られます。
- ・ 職員が利用者の家族、相談支援専門員、関係機関の担当者と連携が取れ、信頼関係が築けるよう業務に取り組みスムーズな支援に繋がりました。
- ・ 内部研修を定期的実施して、基本的な知識や問題解決へのアプローチ方法、ケース検討など、より実践的な内容について学びました。
- ・ 利用者支援の強化及び経営改善のために、令和3年2月から事業形態を『外部サービス利用型』から『介護サービス包括型』に変更しました。令和3年度の経営面においても健全に運営ができる見込みです。

< ケアホーム事業 >

利用者の生き生きとした生活や自立に向けた支援の提供

- ・ グループホーム連絡会で対応が困難な事例などについて協議し、その対応を支援に反映することが出来ました。また、他のグループホームを見学することで職員の「自立に向けた意識」に影響があり、より具体的な支援に繋がりました。職員内の意識や支援も変化しており、それに合わせて利用者自身にも自立に向けた意識が出てきています。
- ・ 車いす使用のため移動の手段が限られている方の外出や、健康のために散歩をする方へのニーズを移動支援事業で個別に対応出来ました。また利用者の趣味や楽しみに対応した個別の支援も提供することが出来ました。

利用実績（定員：7名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
ケアホーム	2,395	150	195	200	198	204	196	1,143
		204	204	202	205	207	199	1,221

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
ケアホーム	207	201	199	195	180	197	1,179	2,322
	208	195	204	201	184	208	1,200	2,421

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< 障がいショート事業 >

地域生活支援拠点の整備を見据えた事業運営

- ・ 障がいデイ職員と連携し、困難なケースや急な依頼にも対応が出来ました。
- ・ 各会議に出席することで事業所間のネットワーク作りや具体的な支援方法等についても話が出来ました。また、その内容を内部研修で協議しました。
- ・ 自立支援協議会の会議に参加し、緊急的な短期入所の利用にも対応できる体制作り等について協議し、受け入れの準備を進めました。
- ・ 相談支援専門員や他事業所と連携し、利用者を中心としたネットワークを作りを行いました。利用者の様子に変化があった時など、その都度スムーズな対応が取れました。

利用実績（定員：2名 営業日：月曜日～日曜日）

（単位：延利用者数【1泊を1とする】）

(上半期)	年間目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
障がいショート	335	39	36	34	36	24	30	199
		8	12	16	20	20	28	104

(下半期)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
障がいショート	29	27	16	19	17	18	126	325
	26	25	24	22	18	24	139	243

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

< 移動支援事業 >

利用者の余暇や趣味の充実に向けた支援

- ・ より多くの方にサービスを利用いただくために、ニーズが多い土曜日の営業を進めていましたが、人員体制上の課題があり、障がいデイサービスと連携して、同じくニーズがある日曜日のサービス提供に向け準備をすすめました。
- ・ サービスの広報のために自立支援協議会等の場で事業の説明を行ってききましたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり十分に出来ませんでした。

- ・ 自立支援協議会にて移動支援事業の成果の発表を行う等、事業についての周知に努めました。
- ・ コロナ禍のため利用のキャンセルが多く、新規の受入れについても充分に出来ませんでした。

利用実績（営業日：月曜日～金曜日）

（単位：延利用時間）

（上半期）	年間 目標	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
移動支援	324.5	7	8.5	4	8.5	2	4	34
		2.5	0	15	6	4	3.5	31

（下半期）	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	合計
移動支援	2	2	4	3.5	0	3.5	15	49
	3.5	3.5	3.5	4	3.5	4	22	53

上段は昨年度実績、下段は今年度実績

五湖の郷食事サービス

美味しく、安全な食事作り

- ・ 気温と湿度に気を配り、厨房内および調理後の食品温度管理の徹底を図りました。また、職員の自己管理をしっかりと行い毎月の検便検査においては、納品業者にも検査報告書を提出してもらいました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の対応策として、納品業者の検品前消毒を徹底しました。
- ・ 各研修においては、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めるため、受講を見合わせた状態となりましたが、昨年受講した嶺南地域の給食施設における災害時の備えに関する対策マニュアル作成については、令和3年度完成にむけて準備を進めました。
- ・ 健全な運営を目指すために、納品業者と連絡を取り合い食材の産地や価格に注意しながら、高騰する材料や時期を見極め、できる限り地産地消に務めました。

利用者個々のニーズに合った食事の提供

- ・ 体調の変化により、通常の食事を摂取することが難しくなった利用者の把握に努め、カロリー調整や形態の変更に、素早く柔軟に対応することが出来ました。
- ・ これまでの比較的高齢の利用者に合わせた献立とは別に元気な年齢層の利用者向けの献立の検討に取り組み、メニュー開発を進めました。
下半期から別メニューとして、見た目のボリュームやカロリーを上げる「特別ランチ」の定着を目指し週1回実施しました。また職員対象にも実施し職員食の実績向上に繋げました。